**田中　忠三郎 （たなか・ちゅうざぶろう）**

**１、プロフィール**

1933年下北郡川内町（現むつ市）に生まれ、独学で遺跡発掘や民具の収集・研究に取り組んだ民俗研究家。収集した「田中コレクション」は２万点に及ぶ。小川原湖民俗博物館館長、（財）稽古館館長を歴任。長年さまざまなメディアで考古学や民俗・民具などについて論評し、著書も多数。

＜生没＞

1933（昭和８）年11月26日～2013（平成25）年３月５日

＜代表作＞

南部つづれ菱刺し模様集（1977）・みちのく民俗散歩（1977）・私の蝦夷ものがたり（1979）・田中忠三郎コレクション目録（1992）・津軽、南部のさしこ着（2000）・サキオリから裂織へ（2007）など

＜青森との関わり＞

川内町に生まれ、旧制弘前中学、県立八戸水産高校、県立大湊高校で学ぶ。平内町・槻の木遺跡などを発掘後、小川原湖民俗博物館館長、（財）稽古館館長を歴任。佐井村海峡ミュージアム設立に尽力した。

**２、作家解説**

1933年（昭和８年）下北郡川内町（現むつ市）生まれ。少年の頃から考古マニアで、23歳から単独で槻の木遺跡・一本松遺跡（共に平内町）を10年間発掘。1977年より布を中心にした民具の収集・研究に取り組む。小川原湖民俗博物館（三沢市）館長、1991～1998年（財）稽古館（青森市）館長を務める。1965年頃より県内外の新聞・雑誌などに、民俗に関わる論考・随筆を発表。稽古館館長時代は、「季刊稽古館」を20号発行した。また、テレビ・ラジオなどで県内の考古・民俗をわかりやすく紹介した。

1977年に『南部つづれ菱刺し模様集』（北の街社）を出版以来、多数の著書のほかに、『北海道・東北地方の民具』（1982年・明玄書房）、『北海道・東北地方の水と木の民俗』（1986年・明玄書房）、『神奈川大学日本常民文化研究所調査報告第11集　仕事着―東日本編』（1986年・平凡社）、『甦る縄文の思想』（1993年・有学書林）、『雪国の視座―ゆきつもる国から』（2001年・毎日新聞社）などの共著も多い。

長年にわたり収集された「田中コレクション」は、衣・食・住に関わる民具など2万点に及ぶ。うち、津軽、南部さしこ着786点が国の有形民俗文化財（県立郷土館管理）、紡織用具520点が県の有形民俗文化財に指定された。収集民具などから、寺山修司監督の映画「田園に死す」（1975年）の民俗考証、青森放送制作「下北能舞伝承」（1981年・地方の時代賞映像祭大賞受賞）の民俗考証、黒澤明監督の映画「夢」（1990年）衣装協力、映画「菅江真澄の旅」（2002年・紀伊国屋書店）衣装考証などを担当した。2009年には、田中コレクションに触発された『ＢＯＲＯ　つぎ、はぎ、いかす。青森のぼろ布文化』（アスペクト社・小出由紀子など編集）も出版された。

1979年青森県芸術文化報奨、同年川内町より文化功労者として表彰、1983年紺綬褒章受賞。日本民具学会会員、北海道・東北民具研究会会長、青森ネブタ祭奨励委員長を務めた。

**３、資料紹介**

〇『私の蝦夷ものがたり』

図書

1979（昭和54）年５月15日

290mm×217mm

23歳から10年間独自で縄文遺跡の発掘を続けた著書の文と写真で、月刊誌「あかりしび」（北の街社）に５年余にわたって連載し、同社から発行。古代東北の野山に力強く存在した縄文の人びと、蝦夷とよばれた人びとに激しく心動かされ、彼らと「資料の一つ一つに心をこめて接することが対話であると考えた。（中略）この本は私と古代の人びととの心の対話から生まれたといっていい」と著者はあとがきに記載している。